

円高の進行が政策発動を促す

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

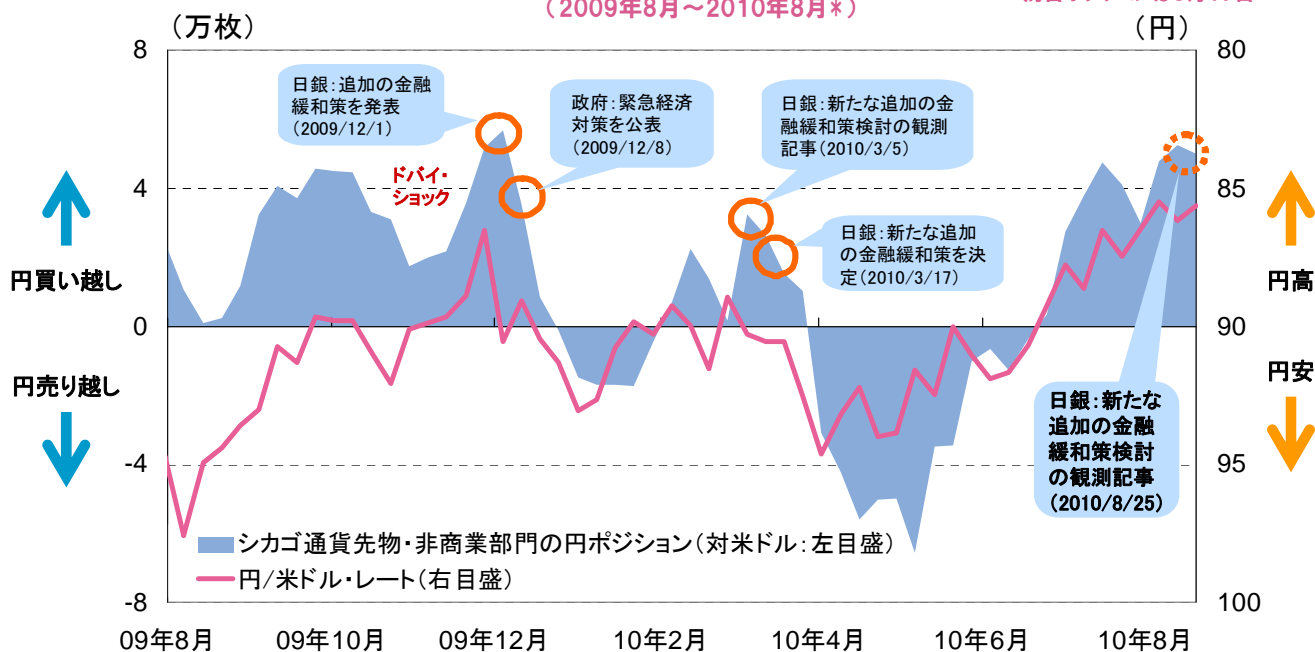
nikko am
fund academy

足元で円高が加速しています。円相場の急伸を受けて、日銀が追加金融緩和策の検討に入ったとの観測記事が本日の新聞で報道されています。これまで国内の経済指標に明確な減速が見られず、円高だけを理由にした追加緩和には動きにくかったと見られる日銀ですが、先週16日に発表された4-6月期の実質GDP成長率が大幅に減速し、政府が経済対策の検討を始めたことで、金融政策面から景気を支援する理由が強まったことにより、追加金融緩和の実施に向けた外部環境が整ってきたと見る事ができるでしょう。9月6-7日の政策決定会合において、あるいは状況によってはそれ以前にも、日銀が追加金融緩和策を発表する可能性は高まっていると言えます。

米国の景気減速観測によって日米金利差が縮小傾向を示し、今月10日には米FRB(連邦準備制度理事会)が追加の金融緩和に着手し始めた現状においては、円高進行に歯止めをかける一つの方策として、日本側の追加金融緩和は一定の効果をもたらすと期待されます。短期的な売買を行なう為替投機筋の動向を示す、シカゴ通貨先物・非商業部門の円買いポジション(対米ドル)は、先週現在、円高が加速した昨年11月の「ドバイ・ショック」以来の高水準に積みあがっています。「ドバイ・ショック」後の昨年12月1日の日銀の金融緩和策決定が、その後、為替投機筋の円買いポジションを円売りポジションに変化させ、円高から円安に反転する一つのきっかけとなりましたが、仮に今回日銀の追加金融緩和が行なわれた場合、高水準に積みあがった為替投機筋の円買いポジションにどのような変化が生じ、円/米ドルの相場がどのように動いていくのか、市場の動向が注目されるどころです。

為替投機筋の円(対米ドル)ポジション
(2009年8月～2010年8月*)

*為替は8月20日、
為替ポジションは8月17日



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。